

令和6年度第1回小櫃・上総地区公民館運営審議会会議録

- 1 会議名称 令和6年度第1回小櫃・上総地区公民館運営審議会
- 2 開催日時 令和6年5月14日(火)
14時55分から16時30分
- 3 開催場所 君津市小櫃公民館 研修室
- 4 出席委員 【小櫃地区選出】三橋委員長、丸山委員、荒井委員
【上総地区選出】小泉副委員長、石井委員、小島委員
事務局 【小櫃公民館】石井館長、藤平副館長、會澤副主査、島津主事
【上総公民館】本橋館長、潤米松丘分館長、相川亀山分館長
森本副館長、早田主査、今井公民館主事、池田主事
- 5 欠席者 栗原委員、鳥井委員
- 6 傍聴人 なし
- 7 会議概要 下記のとおり

- 1 開会（進行 藤平副館長）
- 2 委員長あいさつ（三橋委員長）
- 3 小櫃公民館長あいさつ（石井館長）
- 4 新任職員紹介
- 5 議事

【三橋委員長】

それでは次第に沿って進めてまいりますので、よろしく申し上げます。本日は報告事項が2項、協議事項が1項ございます。

それではまず、報告事項その1「令和6年度 公民館運営審議会の進め方について」事務局から説明をお願いします。

【藤平副館長】

*別冊資料P5のとおり説明。昨年度意見を取りまとめた「令和8年1月実施20歳のつどいにかかる懸案事項についての意見」は生涯学習文化課へ提出済み

【三橋委員長】

委員のみなさまからご意見ありますか。

【小島委員】

時間の変更はあるかと思いますが、日程は決定ですか。

【藤平副館長】

この日程で決定したいです。

【三橋委員長】

それでは、報告事項その2「各公民館事業と「経営指針」および修繕・備品購入計画について」に移ります。まず小櫃公民館、続いて上総公民館の順に説明をお願いします。

【藤平副館長】

*資料「2024（令和6）年度 小櫃公民館経営指針」、別冊資料P6～10、P17のとおり説明

【森本副館長】

*資料「2024（令和6）年度 上総公民館経営指針」、別冊資料P11～17のとおり説明

【三橋委員長】

ただいま各公民館から説明がありましたが、委員のみなさまからご意見、ご質問等あ

ればお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

では、みなさん資料を確認されているようなので、私から口火を切りたいと思います。小櫃公民館の成果と課題について、「おびつスマイルサロン “いーね、”」などのご説明をいただきました。

まず、私は自治会の会計をしているのですが、今まで自治会に加入していた人が、家族の状況で自治会活動に参加できなくなり、自治会を脱会して自治会費ではなく自治会への協力費のような形でいただくことになったというケースがありました。先日集金に伺ったところ、奥さんが認知症を発症してしまい、どうしたらいいかと困っていました。そういう事がいろんなところで起きています。介護の話は福祉の分野になりますが、一人暮らしの人が、年々体が弱って、去年まで歩いていた人が歩いて出て来られなくなってしまい、公民館事業には出て来られない、という事案もどんどん増えています。そういう中で、福祉の方と連携しながら公民館事業に取り組むことで、公民館が地域全体に貢献しているという見え方や評価をいただけたと思います。

もう一つ、課題になっている「用がなくても来られる公民館」に関してです。公民館開館当初は、どんどん利用してもらおうと活動をしてきたわけですが、そこで活動をし始めた人たちが、あと10年もすると年齢的に活動できなくなってしまうのではないかと思います。今までの公民館利用者とは違う活動にシフトしていかないといけません。人口が減ってきている中で、これまでとは違う利用の仕方、利用のしやすさに取り組んでいく必要があります。ここで重要になる視点が、地域の人口構成がどのくらい変わってきているのか、という事だと思います。いろいろな見方・視点で、公民館がデータを集めておくべきだと思います。例えば、次の世代の世帯が地域外に出て行ってしまっている実態などです。先日、小櫃地区自治会連絡協議会の会議がありましたが、そういう機会を利用して、自治会の協力を得ながら情報を集めて、公民館活動に活かせるような調査活動が必要だと思います。

さらに、子どもに関していうと、小櫃の場合には自治会ごとに子ども会がありますが、子どもの数はいるけども、世帯数で見るとごく一部という状況が目立って来ています。公民館の運営の仕方にしても、子ども会の人たちを集めて会議を実施しても、周りに相談相手がない中、子どもに関する組織を今以上に手助けして再生できるような機会にしてもらいたいと思います。

【小泉副委員長】

小櫃公民館の「用がなくても来られる公民館づくり」はとても素敵な言葉だと思います。先日、永峯医院に行ったときに、スマイルサロンのチラシが貼ってありました。回覧だけでなく、そういった周知が大事だと実感しました。

あとは、老朽化はどうしても避けられませんが、私には建替え前の上総公民館のイメージが強く、小櫃公民館に来るとそれを思い出します。昭和の雰囲気を利用して活かしてもいいのではないかと思います。難しいかもしれませんが、子どもたちが壁にペンキで絵を描いたり、オリエンテーリングをして回答したらプレゼントをもらえるようにする、というのはいかがでしょうか。さらに、そのプレゼントも高齢者学級で作ってみるとか、とにかく子どもから高齢者まで巻き込んで、一つ一つの講座がつながっていくことが大事だと思います。ICTについてはあまり触れられませんが、入り口に掲示してあった「七夕ホテル谷フェスタ」のチラシにはQRコードが添付されていました。そういうところで、いろんな事業でも使えるといいなと思います。

上総公民館については、松丘探検隊など、自然の中で地域を歩く事業があるので、参考に一緒に参加する機会がありましたが、参加した後、個人的にも歩きたいと思ったのですが、霊場のため塩をまいたことがあったので、一人ではなかなか行けないところでした。そういう散歩コースについてお知らせをして、観光客も増えてきているので、久留里だけでなく道も綺麗に整備して、散歩コースとしてこういうところがありますということ、公民館の講座で歩いた後、軽く散歩できるコースの紹介をする、久留里線で回るなど難しいかもしれませんが、一歩先に進んでもらえるといいです。

【三橋委員長】

最後の話は、先日の「小櫃まるごと博物館」運営会議での話のなかで、せっかくQRコードを貼ってあったりすることや、コースもひな形をつくろうということが委員から出ていましたね。

【會澤副主査】

もともとおしゃべりウォーク10年分のコースをまとめてみましたが、おしゃべりウォークは歩くことを目的としているので、なかなかそれ単体では歩かないということで、もっと気軽に地域資源を回れる身近なコースづくりも進めていけるといい、という話になりましたので、コース作りは小櫃でもできるかなと思います。

【三橋委員長】

上総公民館でも小櫃公民館でも、いろいろと下地はできていますし、現在も運営審議会も一緒にやっているの、子どもキャンプもそうですが、一歩進めて、スマイルサロンなど抱えている家庭の状況など、お互いに情報共有して、合体させたりしていけると地域全体でプラスになっていくと思います。ここに住んでいる人は限られた人口なので、小櫃も上総もお互い参加できれば、そこから口コミで、よそに住んでいる子ども世帯などにもさらに広がっていけるので、連携を考えていけるといいと思います。

他にご意見ご質問はないですか。

【丸山委員】

先ほどから出ているキーワード、「用がなくても来られる公民館づくり」についてですが、私は、公運審、サークル、スマイルサロンの運営委員として、用があって公民館に来ている者です。用がなくて来ない人よりも用があって来る人の方が少ないと思います。主人も母も公民館には来ないです。スマイルサロンも当初、集う場所ということ考えたときに、公民館が企画するイベントのようなものよりも、住んでいる近くの自治会館で実施できるなら高齢者も来やすいと思い、当時の地域の自治会長に相談したところ、いいことだと賛成はしてくれましたが、高齢者のみなさんは忙しくて来ないのでは、と言われて頓挫してしまいました。高齢になると動けなくなるという話も出ていましたが、確かに小櫃は田んぼや畑や庭など、やることが多い地域です。足が痛くても腰が痛くても、それが仕事、やりがいにもなっています。

公民館で実施しているちょっとした学級、イベントに、月1回など、行きたいときに行くようにしていますが、どうしても公民館は、ひまな人が行く、というイメージがあるようです。いよいよ高齢化で外に出かけられなくなると、介護認定を受けて、デイサービスを使い、やがて施設に入っていくてしまいます。高齢者それぞれの健康状態によ

りますが、自分が動けなくなる前に、地域のちょっとしたつながりがあるサークル活動や、たわいもないつながりの場に出てきて、体験してもらいたいです。そういう思いでスマイルサロンのチラシを配っています。スタッフを含めて30名くらいの参加人数で、足の問題がある中、デマンドタクシーを利用しながらでも来てくれています。意欲的に来てくれることはありがたいですが、もっと多くの人に体験してもらいたいです。小櫃地区社会福祉協議会、ボランティア、生活支援コーディネーターなどは人数が入れ替わりますが、そこに公民館が入ることで継続の大きな力になります。継続だけでなく、運営委員側が不得意な、他機関などとの連携やチラシ作成、講師調整を公民館がしてくれています。

公民館に関わると、他にどんどん派生していくケースがあり、介護家族のひろばだけでなく、私はクラフト手芸のサークル活動もしているのですが、子育てサロン「おびつな」でクラフトテープのお手伝いに関わるようになりました。子どもがいる中での作業は大変だなあと思いつつも、いろいろな経験ができました。

公民館を拠点に、できるときにお手伝いするなど、ゆるく活動ができるのではないかと思います。ちょっと行って話そう、というようになるといいです。そのためにも用がなくても来られる公民館になるといいですね。

*このほか資料の誤表記の指摘

【三橋委員長】

確かに丸山委員がおっしゃるとおり、家の周りにはいる人は公民館の存在を近くに感じていませんね。小櫃の感想でいうと、公民館を利用する人以外は、ほぼそういう感覚です。自治会館もコロナ以後は、ほとんど使われなくなってしまいました。別の働きかけをしていきながら、公民館だけでなく自治会館を使って、いろいろな事業展開ができるのではないのでしょうか。そのためにも自治会長の了解が必要で、そういう働きかけが必要になります。自治会館が使われないと、スマイルサロンのチラシも見られません。利用のない自治会館では貼っても意味がなくなってしまいます。

ご意見がなければ次に進みます。協議事項その1「モデル事業について」に入ります。令和5年度・6年度の審議テーマは「地域活性の拠点としての公民館運営・事業」の現状についてですが、今年度は両館がこのテーマに沿ったモデル事業を実施し、私たち審議委員が評価を行うことになっております。

まず、両館から令和6年度に評価を行うモデル事業について、次に事務局から「評価シート」について説明をしていただきます。それでは、モデル事業について小櫃公民館から説明をお願いします。

【會澤副主査】

*別冊資料P18～20のとおり説明

審議テーマであります「地域活性の拠点としての公民館運営・事業」にかかる小櫃公民館のモデル事業につきましては、「ふらっとホーム事業」と「いきいきシニアプロジェクト」の2件をあげさせていただきますので、それぞれ説明させていただきます。

モデル事業の一つ目は、「ゆるやかなつながりによる『ふらっとホーム』事業～大人版ちょボラの会を核とした小櫃公民館の『快善』～」です。

「ちょボラの会」とは、「ちょこっとボランティアの会」の愛称で、「できることを、できるときに」を合言葉に取り組むボランティア活動です。これまで高校生によるボラ

ンティア活動の名称として使用していましたが、小櫃公民館の再整備計画にかかるアンケートで、最も多かった要望が、「用事がなくても憩い・くつろげる環境の整備」であり、その後のワークショップにおいても、ロビーや図書室を中心に、子どもの居場所、遊び場など気軽に立ち寄れる交流空間、くつろげる雰囲気づくりに対する要望が多く出されました。

そこで施設の改修を待つ前に、できるところから施設環境をよりよくしていこうという考えのもと、今年から「大人版ちょボラの会」を始動させています。

事業名称については、公民館特有の「集う」「結ぶ／つながる」という、いわゆるプラットフォーム的機能と、ふらっと立ち寄れるという意味を込めて「ふらっとホーム」としました。

すでに2月29日の準備会において、こちらから声掛けをさせていただいた方たちに集ってもらい、ブレインストーミングの手法を用いて小櫃公民館の「快善」計画を立て、このアイデアを中心に、3月から毎月1回会議を設けながら、検討とロビーや図書室を中心とした改善活動を行っています。

具体的には、ロビーに図書コーナーを設置、図書室内に勉強スペースを設置、ロビーで遊べるカードやボードゲームの掲示物作成、「ふらっとロビー」として、お茶やコーヒー等が飲めるよう、ポットと「お気持ちボックス」をすでに設置しています。

今後、文化祭の期間中に、軽トラ市やフリーマーケットを行う「ふらっと ORAGAI CHI / おらが市」という、にぎわい創出のための販売イベントができないか、検討していきます。

事業の評価方法にあたっては、随時ロビー等の館内を見学いただきながら、私どもで説明をしたいと考えておりますが、これと併せて「ちょボラの会」のメンバーにも日程調整して懇談できる機会を設定していきたいと思っております。懇談の日程につきましては、決まり次第、改めてご案内させていただきます。

ボランティア活動は任意ですので、「楽しさなくして参加なし」の視点から、この事業に携わる人たちが楽しみながら活動していくことを大事に、できるところから無理なく進めていこうと考えています。この事業をとおして、子どもから高齢者まで多様な住民の皆様が目的なく居合わせることが出来る空間をつくっていくとともに、多様な主体を結ぶことにより地域のにぎわいを創出し、交流人口の拡大を図っていきたくと考えています。

次に、モデル事業二つ目の「いきいきシニアプロジェクト～ほほえみ学級・おびつスマイルサロン “いーね” ・介護家族のひろばの展開～」ですが、小櫃公民館では高齢者向けの事業として、アクティブシニア向けの「ほほえみ学級」と、よりマイルドな内容の「おびつスマイルサロン “いーね”」を実施し、参加者の体力面やニーズに応じた参加機会を整備しています。今年度はさらに、スマイルサロンからの派生事業として、東部地域包括支援センターや生活支援コーディネーター、介護者ネットきみつ、介護当事者らと連携し、認知症の介護者同士が、日頃の思いを出し合える場として「介護家族のひろば」を開設し、介護する家族にとっての心のケアを図っていきます。

ほほえみ学級とスマイルサロン “いーね”、そして介護家族のひろばの3つの事業の一体的な展開を「いきいきシニアプロジェクト」として、今後「人生100年時代」において、30年以上にわたる高齢期にあっても、当事者やそのご家族が、いきいきと地域で過ごすための、学びとつながりづくりの拠点としていきたいと思っております。

事業の評価方法に関してですが、「介護家族のひろば」につきましては、年2回開催し

ますが、直近ですと6月6日（木曜日）午後1時30分から3時30分を実施します。ただ、事業の性質上、プライベートな内容も多分に含まれるため、参加型での評価方法ではなく、後日報告資料等を送付しますので、書面評価をお願いします。

一方で、ほほえみ学級とスマイルサロン「いーね」につきましては、今年度8月9日（金曜日）（※会議後、8月23日（金曜日）に日程変更）の午後1時30分より、合同開催の形で実施する予定となっております。内容はスマイルサロン「いーね」の流れで進めていきますが、頭と体の体操をした後、ちょっとためになる時間として「落語」を聞き、後半は参加者同士でおしゃべり、最後には歌を歌う、という流れで進めてまいりたいと思います。こちらはぜひご参加いただき、評価していただけるとありがたいです。

【森本副館長】

*別冊資料P21～22ページのとおり説明

上総公民館のモデル事業「みんなイキイキ！食の健康教室－高血圧撲滅編－」について、昨年度第4回の運営審議会でも少し説明をさせていただきましたが、そのときのご意見を踏まえて改良した部分もありますので、ご説明させていただきます。

経緯につきましては、令和5年度は地域の現状や地域活性に視する事業や活動の検証、また、上総公民館のあり方に関するアンケート調査を実施し、地域の方のニーズ、公民館の役割などの把握に努めました。アンケート調査の結果では、期待する講座として、普遍的なテーマであります「健康学習」がトップとなったことを踏まえてモデル事業の実施について検討しました。

目的としましては、上総地域の状況、人口構成や地域特性を踏まえて、今回は「健康と食」に着目し、モデル事業案を考えました。全世代の方を対象に、健康、食、調理関係の学習を行い、健康意識の向上、健康寿命の延伸、地域住民の交流、世代間交流、親子交流などの活性化を図り、地域の方が住み慣れた地域で元気で生き生きと暮らすことで、持続的な活性化につなげたいと考えています。

協力につきましては、各機関と調整をしているところです。

内容につきましては、全世代に対してモデル事業を行います。委員の皆様には評価いただくのは、成人向け「高血圧改善で健康寿命延伸～孫や子と一緒に料理教室！～」で、2回実施する予定です。第1回は7月2日（火曜日）午前中に実施予定で、座学にて高血圧に関する学習と、ベジチェックを予定しています。第2回は7月30日（火曜日）の午前中で、子どもたちが夏休みに入っている時期のため、孫や子どもとおいしくて楽しい減塩調理実習を予定しています。

評価対象ではありませんが、小学生向け事業「一人でもできる！カンタンおいしい料理！」は、君津市学校給食共同調理場のレシピ提供と、上総公民館利用団体「くるりクッキング」の協力により、小学生が一人でも作れ、高血圧を未然に防ぐレシピの学習や調理実習を行います。

中高生向け事業「ごちそう健康クッキング！」は君津青葉高校と連携し、農業系列で栽培した作物を使用したり、家庭・福祉系列で学習した調理技術を使用したり、高血圧を未然に防ぐレシピの学習や調理実習を行います。

各事業につきましては、文化祭などで学習成果として、参加者が発見したことや学んだことを発表・展示することで、モチベーションや意識の向上、地域の一体感や連携感の向上も図っていきます。

上総公民館のモデル事業の説明は以上です。

【三橋委員長】

3事業説明していただき、それぞれの評価方法について説明されたので委員のみなさんは確認をしておいてください。続いて「評価シート」についての説明を、事務局からお願いします。

【會澤副主査】

*資料「小櫃・上総地区公民館運営審議会モデル事業評価票（令和6年度）」のとおり説明

【三橋委員長】

今、スマホで出してみたのですが、文章を書くとなると、パソコンで回答した方が回答しやすいのですが、様式のデータで送ってもらえますか。

【會澤副主査】

希望の方はメールにて様式データを送らせていただきます。

【三橋委員長】

回答について先に話をしてしまいましたが、評価事業や評価方法について、ご質問があればお願いします。

【石井委員】

資料だけでは評価できないので、参加しないとわからないですよね。行かないと評価はできないと思うのですが、ふらっとホーム事業の日程はいつになりますか。

【會澤副主査】

懇談会の日程につきましては、決まり次第お知らせをしますが、先ほど口頭でお伝えした8月9日（※会議後、8月23日（金曜日）に日程変更）の日程も併せてお知らせいたします。

【石井委員】

上総公民館の方も参加した方がいいのでしょうか。2日間参加ということでしょうか。委員8名いますが、モデル事業の評価は全員が出すということでしょうか。

【森本副館長】

基本は参加してもらいたいと考えています。

【丸山委員】

予定がつかなかった場合、報告資料をもとに書いたこともあったと思いますが、それでもよいでしょうか。

【森本副館長】

いろいろとご都合があるかと思しますので、こちらのほうで事業の説明をさせていた

できます。

【三橋委員長】

原則は参加ということですね。パソコンのメールアドレスの確認と併せて資料を送ってもらっても良いかと思えます。

【荒井委員】

小櫃公民館は2事業2枚、上総公民館は2回分を1枚ということでよいでしょうか。

【森本副館長】

2回分の事業を実施した後に報告資料を送付したいと考えています。

【荒井委員】

行ってみて評価する、行けない場合には資料をもとに評価するということですか。

【森本副館長】

1回目出られなかったが2回目出られるという場合もあるかと思いますが、その時には個別に説明したいと考えています。

【三橋委員長】

不明な点があれば公民館に問い合わせしてもらいたいと思います。

本日の審議は、これにて終了いたします。速やかな進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

それでは、事務局に進行をお返しします。